

倉吉市周遊滞在型観光地モビリティ向上計画

第1章. はじめに

第2章. 周遊滞在エリアの地域特性

第3章. 観光客等の移動実態及びニーズの把握

第4章. 実証実験の結果概要

第5章. 周遊滞在エリアの課題の整理

第6章. モビリティ向上の方向性と具体策

第7章. 周遊滞在エリアの整備構想

第8章. 今後のスケジュール

令和5年3月

倉吉市

1 計画策定の背景と目的

■本計画の背景

- ・交流人口の拡大による地域経済の活性化を図るため、『レトロ&クールツーリズム』を推進しています。
- ・観光入込客数の伸び悩みや観光客の市内滞在時間が短いため、観光消費額の増大や交流人口の創出に繋がっていない状況です。
- ・年間約60万人が訪れる主要観光スポット「赤瓦・白壁土蔵群エリア」周辺に新たな魅力が続々と誕生しています。（平成30年 円形劇場くらよしフィギュアミュージアム、令和元年 打吹回廊、令和3年 小川氏庭園 環翠園、令和7年 鳥取県立美術館など）

■目的

- ・県立美術館～赤瓦・白壁土蔵群エリア～円形劇場・小川氏庭園周辺の東西約2.5km×南北0.5kmの範囲を『周遊滞在エリア』と位置付け、令和7年春の県立美術館の開館の動きに合わせて、倉吉らしい周遊滞在型観光まちづくりを推進します。
- ・県立美術館の年間入館者数10万人を取込み、観光入込客数の増加と滞在時間の延長による地域経済の活性化、交流人口の増加、リピーターの創出による移住定住の促進等を目指します。

観光客の利便性向上

×

=

暮らし良さの向上

倉吉らしい周遊滞在型
観光まちづくり

2 計画策定の経緯

- ・本計画は令和3年にWEBアンケート調査や地域試乗会等を開催し、それらの結果を踏まえて素案を作成しました。
- ・令和4年度には計画に基づき実証実験を実施しました。本計画は、その実証実験の結果を踏まえて素案を成案化したものです。

令和3年 WEBアンケート調査、地域試乗会等を実施

令和4年3月 倉吉市周遊滞在型観光地
モビリティ向上計画素案の作成

令和4年10～11月 実証実験の実施

令和5年3月 倉吉市周遊滞在型観光地
モビリティ向上計画の策定

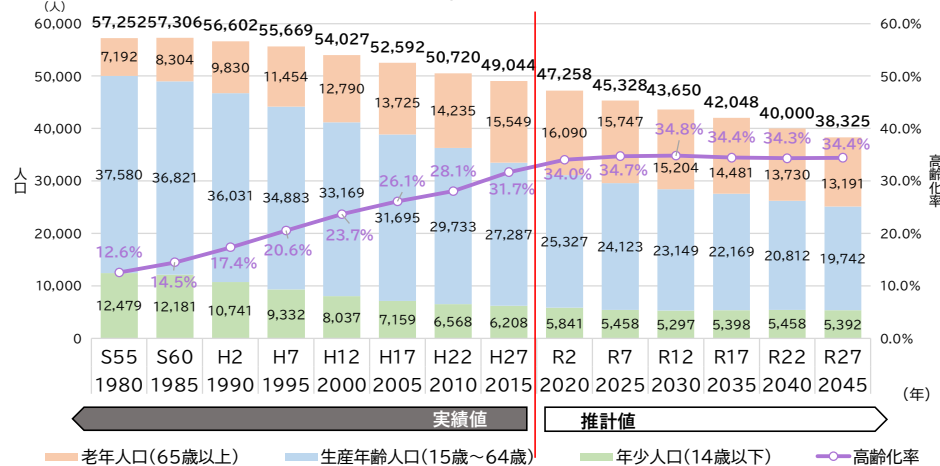
3 対象地域

- ・以下のエリアを本計画の対象エリアとします。



1 地域特性の整理

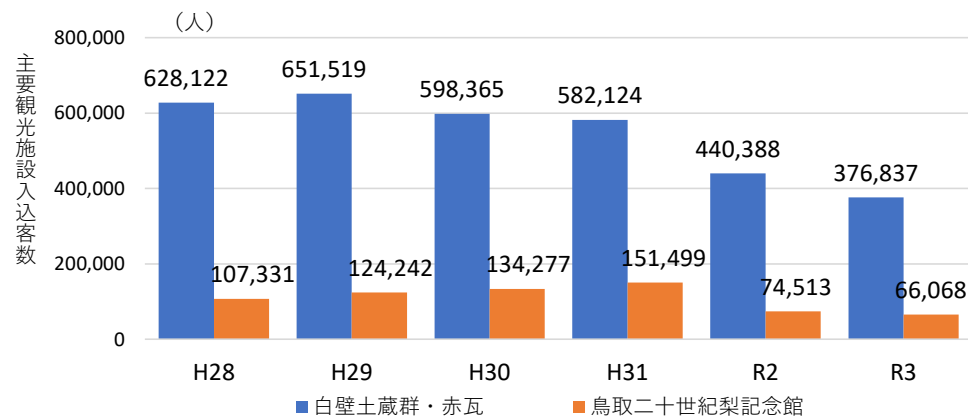
○本市の人口は減少傾向で推移しており、今後も減少傾向で推移していくことが予想されます。一方で高齢化率は増加傾向で推移していくなど、このまま推移すると地域経済の活力低下が懸念されます。



▲本市における年齢3区分人口と高齢化率の推移

出典：国勢調査、倉吉市人口ビジョン

○「白壁土蔵群・赤瓦」における入込客数は、H29年以降減少傾向ですが、「鳥取二十世紀梨記念館」は、近年増加傾向です。○しかし、令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれも入込客数が大きく減少しています。



▲主要観光施設入込客数

出典：観光客入込動態調査結果

2 交通特性の整理

○周遊滞在エリア周辺では、市の無料駐車場が合計で11箇所（普通1,227台、大型30台）配備されています。



▲打吹地区周辺の観光駐車場MAP

出典：倉吉市駐車場マップ

○周遊滞在エリアの中心部である白壁土蔵群と倉吉駅の位置関係は、下図に示すとおりで、倉吉駅から周遊滞在エリアまでは路線バスが走行しています。また、エリア内にはレンタサイクルの使用が可能です。



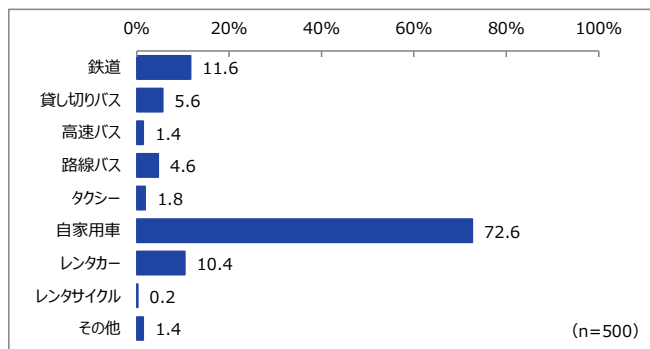
▲周遊滞在エリアのバス路線と鉄道路線

出典：倉吉市

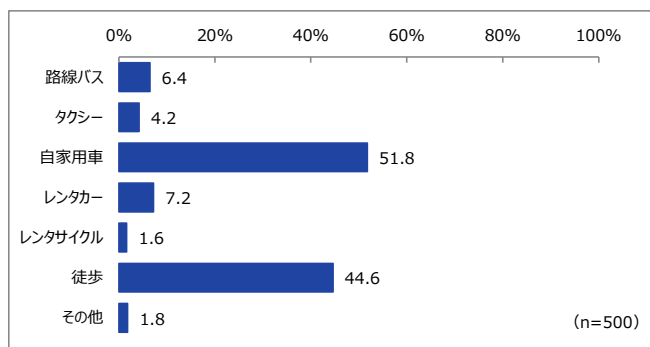
1 観光客WEBアンケート調査結果

観光客の移動手段

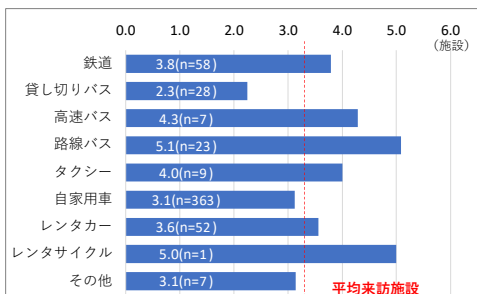
○エリアまでの移動手段は、自家用車が7割を占めています。また、エリア内の移動手段は、自家用車と徒歩が中心です。
○エリア内を自家用車又は徒歩で移動している観光客は、来訪施設数が少なく、滞在時間も短い傾向となっています。



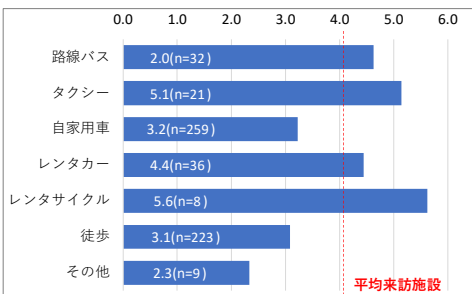
▲エリアまでの移動手段



▲エリア内での移動手段



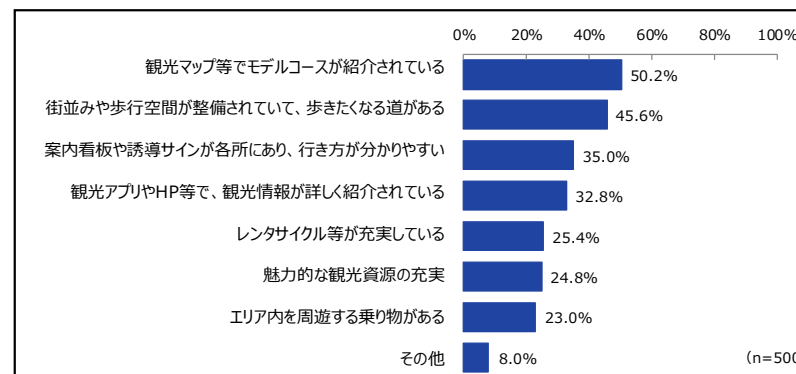
▲エリアまでの移動手段×平均来訪施設数



▲エリア内での移動手段×平均来訪施設数

周遊滞在エリアでの取組の要望

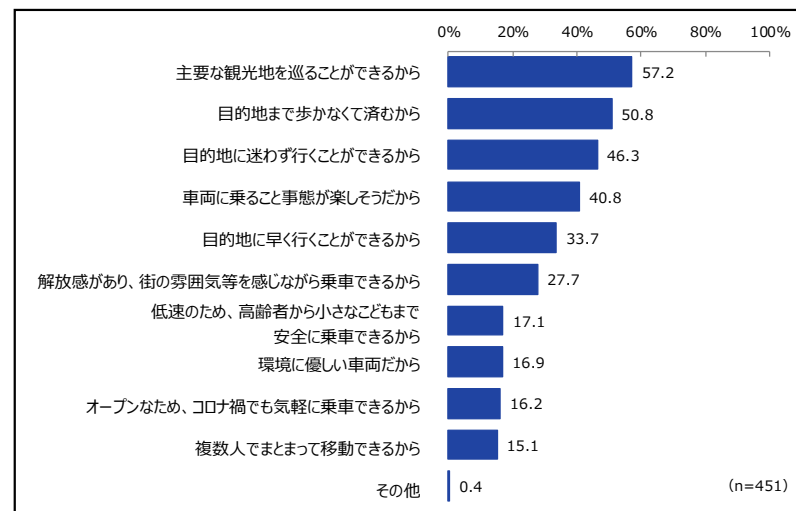
○観光客の要望としては、『観光マップ等でモデルコースが紹介されている』が約5割と最も多く、次いで『街並みや歩行空間が整備されていて、歩きたくなる道がある』や『案内看板や誘導サインが各所にあり、行き方が分かりやすい』となっています。



▲周遊滞在エリアでの取組要望

周遊滞在モビリティを利用したいと思った理由

○利用したい理由としては、『主要な観光地を巡ることができる』が約6割と最も多く、次いで『目的地まで歩かなくて済む』、『目的地に迷わず行くことができる』が多い結果となりました。



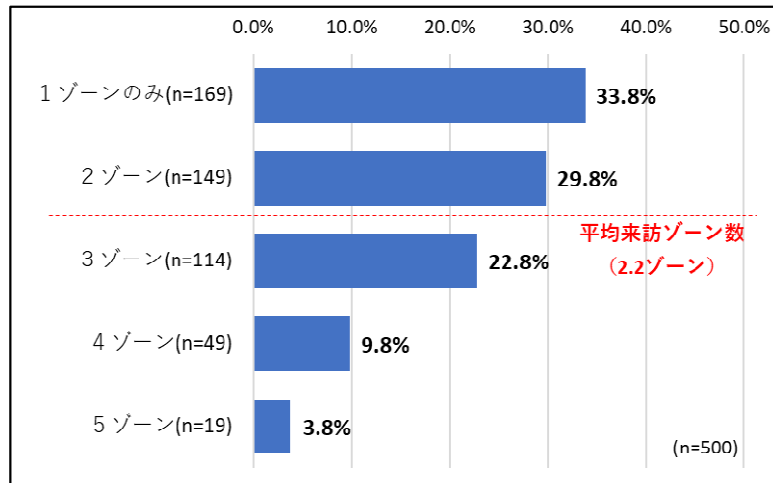
▲モビリティを利用したい理由

ゾーン別の来訪状況と来訪ゾーン数

○来訪ゾーン別では、「西側ゾーン」と「白壁土蔵群北側ゾーン」は、約2割の来訪に留まっています。
 ○平均来訪ゾーン数は2.2ゾーンに留まっています。また、来訪者の1/3は「1ゾーンのみ」の来訪となっています。



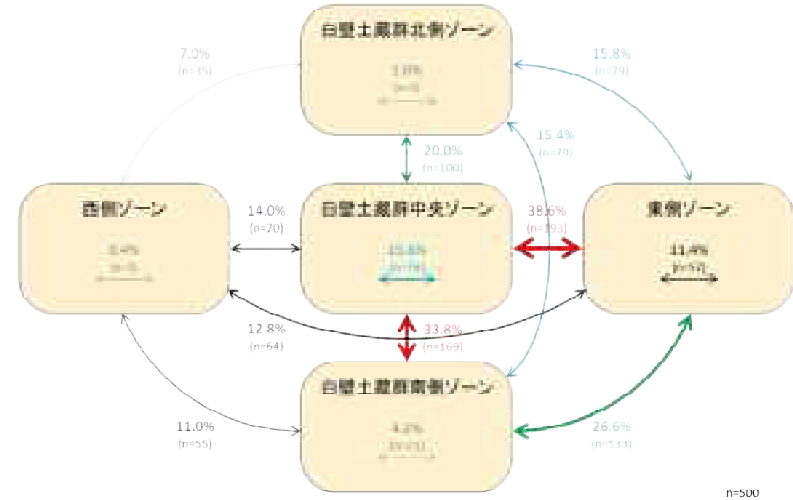
▲ゾーン別の来訪割合（複数回答）



▲来訪ゾーン数

ゾーン別の来訪状況と来訪ゾーン数

○「白壁土蔵群中心ゾーン」と「東側ゾーン」、「白壁土蔵群中心ゾーン」と「同南側ゾーン」をセットで来訪している人が多いものの、来訪者の概ね1/3程度に留まっています。また、特に「西側エリア」には回遊する人が少ない状況となっています。

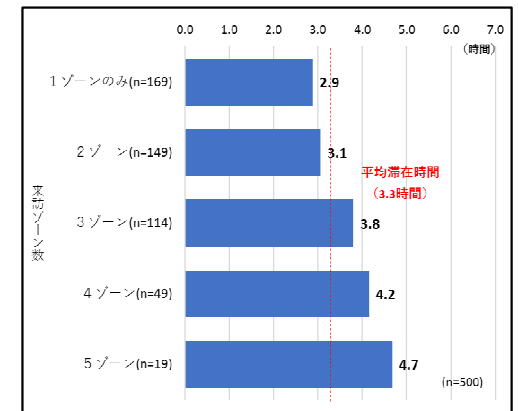


※ゾーン枠内の数値は各ゾーンのみ（回遊なし）の来訪数を示す。
 ※ゾーン枠間の数値は、複数ゾーンを来訪した人の各ゾーン別来訪数を示す（3ゾーン以上を来訪した人も含んでおり、各ゾーン間の移動を必ずしも示すものではないことに留意）。

▲来訪者のゾーン別回遊状況

来訪ゾーン数と平均滞在時間

○全体の平均滞在時間は3.3時間で、来訪ゾーン数が多いほど滞在時間が長くなる傾向にあります。ゾーン回遊を高めることで、滞在時間を長くすることが可能であることが伺えます。



▶来訪ゾーン数と平均滞在時間

2 試乗会でのアンケート調査結果

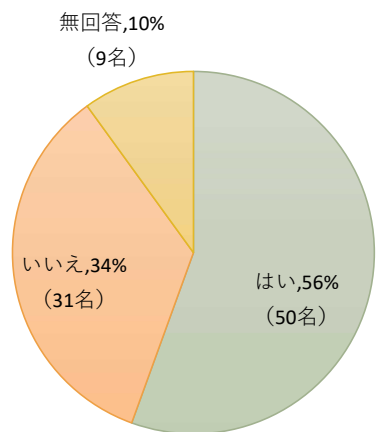
- 実施時期：令和3年11月6日（土）、7日（日）
- 実施内容：グリーンスローモビリティ地域試乗会
（地域住民向け、観光客向け、地域関係者向け）
地域関係者シンポジウム
- 参加者数：延べ204名（2日間）

▼グリーンスローモビリティ地域試乗会兼地域関係者シンポジウムの様子

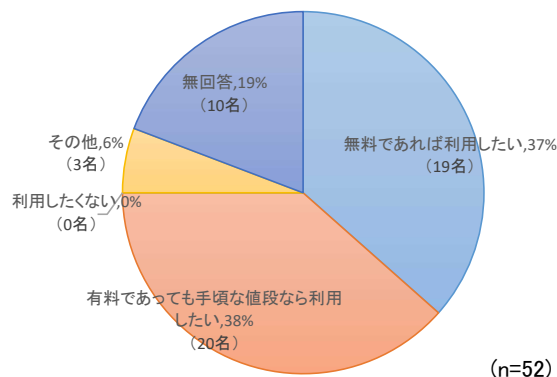


グリーンスローモビリティの利用意向

○地域住民は、約6割が“はい”と回答している一方で、“いいえ”の回答も約3割存在します。
○来訪者は、約7割が“利用したい”と回答しており、“利用したくない”と回答した方はいません。



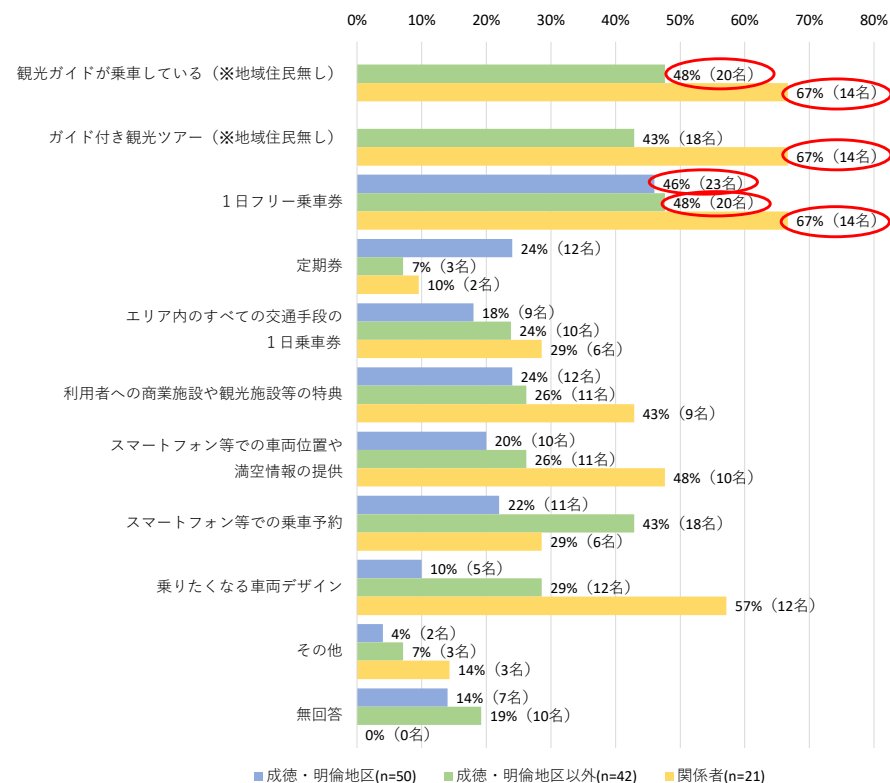
▲グリーンスローモビリティを日常生活で必要と思うか
(成徳・明倫地区)



▲グリーンスローモビリティの利用意向
(成徳・明倫地区以外)

グリーンスローモビリティの利用意向

○居住地に関わらず、“1日フリー乗車券”、“観光ガイドが乗車している”、“ガイド付き観光ツアー”などが多い結果となりました。



▲グリーンスローモビリティを利用する際にどのようなサービスがあればいいと思うか

3 関係者へのヒアリング調査結果

ヒアリング意見について、抜粋したものを以下のとおり整理します。

- ・白土蔵群入口の駐車場に利用が集中し、慢性的に渋滞が発生している。また、その一方で、周辺部の駐車場は利用が少ない状況。
- ・打吹回廊がコロナ禍の影響もあり、十分に活用できていない。
- ・プロムナード公園を観光資源として有効活用を図った方が良い。
- ・走行ルートを検討の際は、幹線道路等の一般交通の走行が多い道路は避ける必要がある。
- ・周辺市町でもあるような周遊バスも検討した方が良い。
- ・グリスロだけでなく、路線バスや周遊バス、その他のパーソナルモビリティ等を含めた一体的な交通体系を検討した方が良い。 など